

“恥ずかしい思い”とは何かを知るために、どうぞシリア へおいで下さい

——露のザハロワから米のサマンサ・パワーへ

【訳者注】これは米露の女政治家同士の、痛快な（米にとっては不快な）ひとコマである。ロシア人はこれをよくやる。ロシア軍が大挙して、ウクライナの国境を破って侵入したという、ニセ写真が流れたとき、誰かが、おもちゃの戦車やトラックをずらりと庭に並べて、写真を撮り、これをアメリカに送りつけて「大変だあ」とからかった。これは先日載せた「私はシリアに住むシリア人です…」(<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160914.pdf>)を頭において読むべきであり、誰よりもサマンサに読んでもらいたい。

相手（ロシア）と自分の立場を見事にひっくりかえして相手を攻撃するのは、ワシントン政治家の常套手段である。「NATO リーダーによるロシア侵略の陰謀：ワルシャワ声明」(<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160721.pdf>)に紹介されている「ワルシャワ声明」はその典型である。アメリカには、狂気じみて恐ろしい女政治家が何人もいる。ヒラリー・クリントンをはじめ、マデリン・オールブライト、ビクトリア・ヌーランド、それにこのサマンサ・パワーである。

RT (Russia Today)

September 18, 2016



ロシア外務省報道官マリア・ザハロワ(左)とアメリカ国連大使サマンサ・パワー

ロシア外務省報道官が、アメリカの国連大使を、“恥ずかしい” (embarrassed) とはどういうことか、じかに体験していただくためにシリアへ招いた。これは、合同空爆がシリア軍を

攻撃して殺した後で、アメリカは IS を支援しているとロシアがほのめかしたのに対し、米
国連大使がモスクワに猛反撃したことから起こった。

アメリカ主導の連合軍が行った恐ろしい空爆を詮議するために、ロシアの要求した、緊急国
連安保理事会におけるスピーチで、米国連大使サマンサ・パワーは、モスクワ代表は、この
攻撃はワシントンがイスラム国 (IS, ISIS) テロリストを庇っていることを示すものだ、と
言ったことを“恥ずかしく思う”(embarrassed) べきだと言った。

ロシア外務省によれば、62 人のシリア兵士を殺した Deir ez-Zor 市近くでの空爆は、「無神
経な不注意」と、IS テロへの「直接の援助」の境界線上にあるものである。

パワーの非難に応じて、マリア・ザハロワはフェイスブックにこう書いた――

「親愛なるサマンサ・パワー、“恥ずかしい思い”とはどういうものかを知っていただ
くために、私は、あなたに、ぜひシリアに来ていただいて、ご自分で、そこの人々に話
しかけてみられることをお勧めします。そこの人々とは、ワシントンがその人道的境遇
をずいぶん心配しているらしい、アルヌスラ・フロントの兵士や、“穏健派”反乱軍の
ことではありません。私はまた、シリアの正義のために戦うという、西側の戦士のこと
を言っているのでもありません。私が言っているのは、現地の人々――ワシントンの積
極的な介入によって、6 年以上にわたって、彼らの祖国に仕掛けられた血なまぐさい戦
争にもかかわらず、そこに住み続けている現地の人々のことです。」

関連記事：「〈シリア軍へのアメリカの攻撃の、タイミングも他の様相も、意図的な挑発と
しか思えない〉――チュルキン」

<https://www.rt.com/news/359691-us-strike-syria-uncsc-churkin/>

このモスクワ代表は、さらに続けて、彼女自身は現場の人々と絶えず連絡をとっており、そ
こには、シリアの町々に分散している反乱軍も、そこでの戦いの結果、孤児となった子供た
ちも含まれていると言った。

「ぜひ、一緒に行きましょう」と彼女は言い、パワーのシリア渡航の費用は自分がもつと
約束した。

「どうぞ、よいご返事をお願いします。恐れることはありません。いかなる者も、私のいる
ところで、指一本あなたに触れさせることはありません。もちろん、あなたのお付きの人た
ちが、もう一度、標的を“間違って”撃つたりしなければ、です。あなたは沢山の新しい思

い出をつくられるでしょう。そしてその過程で、“恥ずかしい思い”とはどういうものかが、お分かりになるでしょう」と、モスクワ代表は付け加えた。

ロシアの防衛省は、土曜日、4回の空爆が、Deir ez-Zor 近くで、アメリカ主導の反 ISIS 連合軍によって行われていたと言った。そこではシリア部隊が、IS テロリストによって包囲されていた。

国連へのロシアの恒常代表ビターリ・チュルキンは、2 国間の“合同努力”——この暴力的な状況を安定させ、包囲された領域に人道的援助を送ることを約束するもの——を疑問視していた。

関連記事：「〈アメリカは ISIS を庇っている〉：ロシアが、米連合軍のシリア軍攻撃後、国連安保理事会を招集」 <https://www.rt.com/news/359686-un-security-urgent-meeting/>

現場での滞りない協力のために、両当事者によってサインされた「合同実行グループ」文書に付けて、チュルキンは次のような声明を出した——

「合同実行グループの作業の始まるのは、9月19日ということになっていた。だから、もしアメリカが、Deir ez-Zor や他のどこでも、アルヌスラや ISIS への効果的な攻撃を行う意思があったのなら、彼らはあと2日だけ待って、我々の軍隊との協調の上、自分たちが攻撃すべき者たちを攻撃しているのかを、確かめることができたはずである。」

「そうしないで彼らは、この向こう見ずな作戦を実行した」とチュルキンは言った。「だから結論として、この爆撃が行われたのは、合同実行グループの作業を挫折させ、それが現実に動き始めるのを妨げるためだったのだらうと十分に推測できる。アメリカは現実には、状況をコントロールしておらず、この状況が手に負えなくなったという事実を、隠そうとしているものと思われる。」

<https://www.facebook.com/RTvids/videos/1313150385361878/>

(ビデオ：「シリア軍兵士を殺したとして非難されるアメリカ」)